

Topic 4

受験生困惑！不正な英語スピーキングテスト

(令和6年11月29日質疑)

風間「今回の英語スピーキングテストは機材トラブルにより受験生に大変な不利益をもたらした。不利益を被った生徒から直接聞いたところ、試験開始時刻を過ぎて1時間たつても何ら説明なく待たされ、突然試験が始まり、同じ教室内には機材トラブルで受験できない人もいて、その場で他の受験生の回答を聞きながら待機させられる人もいたとのこと。この事例を都は把握しているのか？」

都「確認している」

風間「機材トラブルで教室の半分の人が受けることができず、待機していた生徒は別室受験だと連れて行かれ、最終的に再試験と告げられたそうだが、都立高校入試判定に反映されるこの試験が公平公正な試験と言えるのか？」

都「適正に実施された」と認識している」

風間「この教室の試験監督3名全員教室内で運営マニュアルを見ながら進んでいたようだ。この試験前日まで試験監督アルバイト募集がなされていたという情報もある。これらは都が容認している事か？」

都「試験監督は実施協定に基づき事業者が準備をしている」

風間「試験開始のタイミングを間違えれば失格だと試験監督から圧力をかけられ動揺した

まま受験した方や、機材トラブルで受験できず指定された再試験日がV模擬試験と重なった方からの救済の声が届いている。このような不利益を被った生徒に対して、都の教育委員会はどのように補償するのか？」

都「個別具体的な事例については、生徒への配慮が必要なことから、説明は差し控える」

風間「かつて、都立高校一般入試の英語リスニングテストで機材トラブルがあった事例ではどのような対応だったか？」

都「一律に全員に加点、公平性に問題がない適切な対応を取っている」

風間「機材トラブルで生徒たちの不利益につながってはならない。今まで東京都の行う都立学校入試は本当に公平公正に行われてきた。しかし、今回の英語スピーキングテストは私が把握している事例だけでも、とても公平公正な



▲都教委答弁を記者会見で報告する様子

風間が会長を務める「中学校英語スピーキングテストの都立高等学校の入学選抜への活用を中止するための東京都議会議員連盟」は委員会後に記者会見を行い、テストの問題点を公表しました。



1020点満点の都立高校入試選考で英語スピーキングテストは20点を占めます。同点で合否が分かれることも多々あります。今回の英語スピーキングテストは機材トラブル多発に加え、アルバイト試験監督による不正な試験運営により、不利益を被った生徒が多数いる状況でしたが、都は「適正に実施された」と強弁し続けました。

解説

状況ではない。都立高校入試選考で20点の配点がなされるということは合否が左右され、生徒の人生がかかっている。過去のリスニングテスト機材トラブル同様の対応とすべきだが、都教委の見解を伺う」

都「都教育委員会が実施を確認し、適正に行われた」

風間「適正なのか？何ら説明なく1時間以上待たされ、動揺しながら受けた生徒がいて、他者の回答を聞いてから再試験を受けた生徒もいるという状況で、公平公正とは思えない。東京都の都立高校入試全体の疑義になる。深刻に捉えるべきだ」

厳しい追及に答弁拒否する小池都知事

～都議会立憲民主党代表質問～ ※風間ゆたかは政調会副会長として代表質問策定に携わっています

26億円のお台場噴水計画に答弁拒否

令和6年12月10日代表質問

Q 知事は、仮称ODAIWAファウンテンは税金を使わないので無駄遣いの批判は当たらないといわんばかりだが、お金の出どころである東京都臨海地域開発事業会計は都が設置した紛れもなく公だ。既に世界各地で行われている巨大噴水ショー自体に目新しさはなく、噴水ショーの企画立案、設置運営は都行政の仕事なのか？小池都政では都行政の役割に基本的認識を欠いた事業が散見される。地方自治法第二条第五項において、都道府県の役割は基礎自治体の事務のうち広域にわたるもの、連絡調整に関するもの、規模や性質の観点から補完すべきものを処理することとされている。都の役割について、知事の基本的な見解を伺う。

A (小池都知事は答弁拒否)

政策企画局長「東京が日本の成長を牽引し、活力あふれる都市へと飛躍するためには、国際競争力の強化を図り、国際的なプレゼンスを高めることが必要。国や都など公共が魅力ある都市づくりに主体的に取り組み、自ら新たな価値を生み出していくことも重要。

Q 臨海開発は、かつては都心部などに住宅を供給する取組もなされ、1997年策定の臨海副都心まちづくり推進計画でも都心部の居住機能の回復などが掲げられていた。今こそ原点に戻り、臨海開発の利益は噴水計画ではなく、住まいの確保など都民に還元されるべきではないか。知事の見解を伺う。

A (小池都知事は答弁拒否)

港湾局長「都は、特別会計である臨海地域開発事業会計を設置し、独立採算による運営を行い、まちづくりを進めてきた。今後、臨海副都心で行う取組は引き続き同会計を活用し、適切に対応する。



都合の良い質問には答弁する小池都知事

自ら選挙公約に掲げた高齢者支援も答弁拒否

令和6年9月25日代表質問



小池都知事は海外出張で訪れたドバイの世界最大噴水ショーに影響を受けたのか、日本はもっと活気が必要だ、と突如お台場海浜公園での噴水整備計画を打ち出しました。その整備費用は26億円以上に加え、維持管理費は年間最大2億円程かかると見込まれています。

Q 知事は選挙公約で一人一人高齢者への支援強化を掲げた。誰にでも身近な地域に居場所がある社会こそ、健全で強い民主的な社会であり、孤立を防ぎ、人々を守る社会の在り方まで深く掘り下げて検討していただきたい。知事はどのような思いを持ってどのように支援強化するのか？

A (小池都知事は答弁拒否)

福祉局長「都は第九期高齢者保健福祉計画等に基づき、地域包括ケアシステムの深化、推進を進めており、区市町村が実施する見守りや、単身高齢者等を対象とした総合的な相談窓口の設置などを支援している。

1973年東京生まれ。早稲田大学本庄高等学院、早稲田大学政治経済学部政治学科卒業後、大手教育企業に入社。その後人材教育企業の創業に携わり取締役就任。6年間早稲田大学大学院で教員として非常勤講師も務める。世田谷区議会議員(4期)。東京都議会立憲民主党政調会副会長(教育政策調査会長)。

風間ゆたかプロフィール



都政へのご意見・ご要望をお寄せください。

風間ゆたか事務所 世田谷区下馬2-20-2-2階
☎ 080-5466-0024 ✉ info.kazamayutaka@gmail.com